

# 乃木神社

# 御祭神百十年大祭

令和四年九月十三日(火)

- 一、修祓  
一、参進  
一、宮司一拜  
一、國歌奉奏(二回)  
一、宮司御扉を開き畢りて側に候す  
一、權宮司以下祭員神饌を供す  
一、宮司祝詞を奏す  
一、權宮司本廳幣を獻ず  
一、獻幣使祭詞を奏す  
一、中央乃木會會長祈願詞を奉讀す  
一、樂を奏す  
一、玉串拜禮  
一、權宮司神饌を撤す  
一、宮司御扉を下げ畢りて本座に復す  
一、宮司一拜  
一、宮司挨拶  
一、退下

## 神饌

一、生花(季節の花)

一、御饌

一、御酒(乃木之譽)

一、餅

一、海の魚(鯛)

一、野の鳥(卵)

一、野菜(季節の野菜)

## 「カステラ」

將軍はご殉死の前に、  
愛馬二頭に大皿いっぱいの  
カステラを與へ、最後の  
別れをされました。

## 「ワイン」

ご夫妻は、ご殉死に際し  
明治天皇より賜つたワインで  
別れの盃をかはされました。  
本日は、明治神宮より御奉納の  
ワインをお供へしてをります。

## 祈願詞

本日、秋の例祭を齋行仕りますに當り、謹みて大神達の大前に申し上げます。

本年の夏が終る頃より、國土の西南部では大型颶風の接近による風雨の災害が憂慮されてをりましたが、關東地方一帯はほぼ順調に季節が進んでをりまして、この御神苑にても、新秋の爽やかさの氣配が仄見えてをります。

天然界の概して穏やかな移りゆきに引比べて、人間世界に於ける不條理な事件・現象の頻發とそれの齎す禍ひの險しさは、かうした神聖な祭事に際して敢へて御祭神に奏上致しますことさへ憚かりの多い、お恥づかしい次第なのであります。

去る七月八日の白晝、奈良市内の街頭で參議院選舉での應援演説中の安倍晋三元内閣總理大臣が背後から銃の狙撃を受けて重傷を負ひ、その日の夜に國民一同の懸命の祈願も空しく逝去されました。享年六十七、政治家としては未だ十分に力を残してをられた、むしろ依然として多難の境にあるこの日本國を率ゐて最終的國家目標を達成せしめるべく、老熟の宰相としての再登場が期待されてゐた砌りのこととありました。

本日より二週間の後に、安倍氏は政府主宰の下、國を擧げての嚴肅な葬儀を以て改めて世の追悼を受けることとなります。氏を自由

あります。

我が日本列島の全體に對し、この様に地球の裏側とも云ふべき遠隔の地からも、又一衣帶水の近隣の地からも、國家の安全保障にかかる事態がしきりに警戒信號を發してゐることに加へて、國內にも舉國一致、以て毅然として國難に對處できる姿勢には程遠い人心の乖離・分裂が露はになつてをります。

分裂し相對立する二派とは詮じ詰めれば、一方に天皇國日本の國體を二千六百八十餘年來の傳統に則して守り抜かうとする正統保守派があり、他方に社會主義的共和政體への革命を自論む左翼陣營があり、この兩者の到底相容れ難い永遠の反目であります。この國體の變革を何か至上命令であるかの如くに思ひ込む危険な思想は、既に御祭神の御存命當時の古き昔にこの國に潜入し、時に姿を現すこともありましたが、その魔障が公然とその地聲の叫びを擧げる様になりましたのは、やはり七十七年前の、あの大東亞戰爭に於ける我が國運の挫折を機縁としてのこととあります。

爾來、御祭神が身を以てお示し下さいました我が皇室への忠誠こそを己が生甲斐の究極の目標とする勤皇の志士の傳統は、確かに一貫して生き續けてをります。然しその方で、國體變革派の蠢動は益々巧妙狡猾に、手を替へ品を替へ、實に種々様々の手段を弄してその破壞活動を止めないのであります。

就中その最も危險な分子は、現在の極く限られた人數の皇族方に

主義世界全體の賢明にして勇斷に富める指導者として仰いでゐるた  
國際社會も、廣くこの送葬の儀に參集するであらうと豫想されてを  
りますが、それにしてもこの人を失つた後の我が國の政治的空白、  
喪失感の深さは簡単に埋めることのできないものであります。

折から、春の崇敬者大祭にても御報告致しましたウクライナ共和國の、大國ロシアによる侵略戰爭勃發といふ災難も既に半年を経過してをります。ウクライナ國民の國家主權と自由獨立を守る抵抗も辛抱強く續けられてはりますが、今に至る迄和平の兆は見えで參らば、疲勞と倦厭の情に負けていつしか弛緩してゆく怖れも無じとし得ません。

かうして己自身の泰平に安住してゐる多くの人々が非常事態の緊張に疲れを覚え始めてゐる隙を狙つて、霸權主義的自己擴大欲に凝り固まつた中華人民共和國は、臺灣の併合と我が尖閣諸島から沖繩縣南部の島々にまで及ぶ領海領土への侵寇の意圖をちらつかせての軍事行動を反復してをります。彼等の威嚇的言辭には多分に平生の恫喝的性癖に由來する虚勢の色彩の濃い部分があるにせよ、厄介なのは我が國の外交當局者達に、相手方の恫喝を眞に受けて怯んだり、屈從的對應に出でてしまふ弱さがある一方、國民大衆の方には萬が一には現實化するかもしけぬ國家防衛の危機に向けての反應の鈍感が支配的であるといふ、この安逸に狎れ切つた沈滯の氣分を示すのであります。

かうした様相を、心靜かに、醒めた眼で見てゐるならば、誰が危険人物で誰が眞の憂國の士であるかの辨別は容易であります。御祭神崇敬者一統は、冷靜な思慮分別に基いて、現在の外からの國難の恐れも有り得ぬことではない、緊張の秋に一層氣を引締め、國の内面・内實での國體再興の事業を肅々として推し進めてゆかなくてはなりません。敵は數に於いて優勢であり、我々は行使すべき力も持たぬ劣弱の徒ではありますが、御祭神の嚴しき御嚮導の下、所期の目的達成のために力を盡くして參りたいものと覺悟致してをります。

この悲願に對し、御祭神の優渥なる御加護を垂れ賜ひます様、この例祭に當りまして衷心より祈願し奉るものであります。

令和四年九月十三日

中央乃木會 會長 小堀桂一郎

# 水師營の會見

作詞 佐々木信綱  
作曲 岡野貞一

記念品として御神酒をお頒ちいたします。  
直会としてご自宅でお召し上がりください。

一、旅順開城約成りて、敵の將軍ステッセル

乃木大將と會見の、所はいづこ、水師營

二、庭に一本なつめの木、彈丸あともいちじるく

くづれ残れる民屋に、いまぞ相見る二將軍

三、乃木大將はおこそかに、御めぐみ深き大君の大

みことのりつたふれば、彼かしこみて謝しまつる

四、昨日の敵は今日の友、語る言葉もうちとけて

我はた、へつ、彼の防備、彼はた、へつ、我が武勇

五、かたち正して言ひ出でぬ、「この方面の戰鬪に

二子を失ひ給ひつる閣下の心如何にぞ」と

六、「三人の我が子それぞれに、死所を得たるを喜べり

これぞ武門の面目」と、大將答力あり

七、兩將晝食共にして、なほも盡きせぬ物語

「我に愛する良馬あり、今日の記念に獻ずべし」

八、「厚意謝するに餘りあり、軍のおきてにしたがひて

他日我が手に受領せば、長くいたはり養はん」

九、「さらば」と握手ねんごろに、別れて行くや右左砲音絶えし砲臺にひらめき立てり、日の御旗

## 三獻の儀

くもりなき朝日のはたにあまでらす

神のみいつをあふげ國民

明治天皇御製

すらけき世を祈りしもいまだならず

くやしくもある かきざしみゆれど

昭和天皇御製

千五百秋の瑞穂の國の民草の

しげりに茂る 御代ぞめでたき

御祭神和歌



## 協賛各社

イル・ゴーポレーション株式会社  
株式会社 あそしあ少額短期保険  
株式会社 井筒装束店  
株式会社 伊藤園  
株式会社 入山商店  
株式会社 要興業  
巧陽社 株式会社  
株式会社 シオザワ  
ジャパンクリエイト 株式会社  
有限会社 松月  
昭和産業株式会社  
株式会社 新宿高野  
鈴鹿調理士紹介所 鈴鹿会  
有限会社 薩  
立野電機株式会社  
株式会社 漢  
株式会社 ラ・スター  
株式会社 ライコープレーション